

放水型ヘッド等スプリンクラー設備
制御盤・現場操作盤

仕様・施工要領書

型 式

W C P - 1 0 3 型

W O P - 1 0 3 型

この仕様・施工要領書は、「KHS-1型放水型ヘッド消火システム」（以下本消火システムという）の「WCP-103型 制御盤」について仕様・施工要領などの説明を行っております。

目 次

I. 仕 様

1. 概 要

2. 仕 様

- | | | | |
|----------|---------|------------|----------|
| (1) 電源部 | (2) 表示部 | (3) 異常監視機能 | (4) 制御機能 |
| (5) 外部接続 | (6) 筐 体 | (7) 一般仕様 | (8) 予備品 |

II. 施工要領

1. 付属品

2. 取扱注意事項

- | | | | |
|---------|---------|----------------|---------|
| (1) 運 搬 | (2) 保 管 | (3) 機器の設置場所と環境 | (4) 据 付 |
| (5) 配 線 | (6) その他 | | |

3. 据付工事

4. 配 線

- | | | |
|-----------|-------------|--------------------|
| (1) 配線系統図 | (2) 外部端子配列表 | (3) 制御盤～現場操作盤間 結線図 |
|-----------|-------------|--------------------|

5. 移報出力

- | | |
|----------|---------|
| (1) 信号仕様 | (2) 端子表 |
|----------|---------|

6. パラメータ設定器の取扱について（社外秘）

I. 仕様

1. 概要

本消火システムは、平成8年2月16日付 消防法施行令の改正（平成8年政令第20号）及び消防法施行規則の改正（平成8年自治省令第2号）により基準化された「放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備」に適合し、日本消防検定協会のシステム評価（1号評価，評価番号：S003）の承認を受けております。

本制御盤は評価に基づき、実施される確認試験に合格したものです。

- ・品名：放水型ヘッド等スプリンクラー設備制御盤 以下「制御盤」という。
- ・型式記号：WCP-103
- ・試験番号：S003C011

また、本制御盤と組合せて使用する現場操作盤は、下記の通りです。

現場操作盤を使用する時には必ず下記のものを使用して下さい。

なお、現場操作盤も評価に基づき、実施される確認試験に合格したものです。

- ・品名：放水型ヘッド等スプリンクラー設備現場操作盤
以下「現場操作盤」という。
- ・型式記号：WOP-103
- ・試験番号：S003M003

 注意

本消火システムの評価は放水部、感知部、制御部、手動操作部のシステム評価となっています。

制御盤，現場操作盤は必ず、試験番号付のものをご使用下さい。

2. 仕様

(1) 電源部

番号	項目	内 容
1	入力電圧範囲	AC90～110V 50/60Hz
2	非常電源装置 ※消火設備用非常電源装置 仕様書参照	定格DC24V鉛蓄電池を内蔵：蓄電池設備認定委員会認定品 標準電流容量〔3.6A, 5.4A, 6.5A〕標準電池容量〔7.2Ah, 15Ah, 24Ah〕 <u>尚、電流容量及び電池容量は、回線数及び感知器の種類などの負荷容量により変わります。</u>
3	充電方式	フロート充電方式（標準） トリクル充電方式（特殊）

(2) 表示部

番号	項目	内 容
1	操作パネル 全区域共通表示灯	〔運転情報〕電源、充電、自動、手動、点検 〔異常情報〕電源故障、放水ユニット異常、感知器異常（系統別）、起動線断線 〔共通〕スイッチ注意、起動、放水、解錠※ ² , 〔運転モード〕自動モード、点検モード
2	操作パネル 各区域別表示灯	区域選択、火災（系統別）、扉状態※ ¹ 、異常
3	操作パネル スイッチ	手動起動、緊急停止、蓄電池試験、警報停止、復旧、自動/手動、 点検、解錠※ ²
4	操作パネル 他部品	電圧計、内蔵ブザー

※1：現場操作盤有りの場合 ※2：現場操作盤電気錠付の場合

(3) 異常監視機能

番号	項目	内 容
1	感知器回路断線検出	各系統、区域別入力（終端抵抗5.1KΩ） 検出時、操作パネルに異常灯・感知器断線灯、異常移報を出力
2	現操盤起動回路断線検出	各区域別（現場操作盤の回路内に終端抵抗付） 検出時、操作パネルに異常灯・起動線断線灯、異常移報を出力
3	電磁弁又は電動弁断線検出	各区域別 検出時、操作パネルに異常灯・放水ユニット異常灯、異常移報を出力

(4) 制御機能

番号	項目	内 容
1	放水起動方式	感知器の火災信号と連動して設定遅延時間後に自動的に放水する 自動方式 と、区域選択を行い手動起動操作で放水する 手動方式 点検モード により自動起動，手動起動の機能点検が可能
2	放水遅延タイマー	放水遅延タイマーの設定時間は、区域毎に設定可能 設定時間は1秒毎に可能
3	緊急停止（手動停止）	緊急停止スイッチにより、弁閉止による通常の放水停止の他に 放水遅延タイマーの緊急停止機能有り

(5) 外部接続

番号	項目	内 容
1	入力 ① 感知器 ・ 赤外線式スポット型 ・ 熱画像センサ ・ 光電式分離型 ・ 自火報火災信号	各回線10個以内（回線終端抵抗5.1kΩ） 制御ユニット1台当たり最大4台まで（系統別終端抵抗100Ω） 中継器内蔵 無電圧接点信号
	②放水制御ユニット 放水圧力スイッチ	放水弁1台当たり1個 放水を検出する圧力スイッチからの信号
	③放水制御ユニット 手動弁リミットスイッチ	二次弁閉止側に1個（標準），各ユニットに最大4個まで可（特殊） 手動弁の開閉状態を検出するリミットスイッチからの信号
	④現場操作盤 操作スイッチ	区域専用型，複数区域一体型が有（区域選択，手動起動，緊急停止） （区域選択線，手動起動線には回線終端抵抗内蔵）
2	出力 ①電磁弁又は電動弁	放水弁の主弁を開放するための電磁弁又は電動弁を起動 有電圧a接点DC24V（接続容量5A）
	②現場操作盤 表示灯	電源，運転モード，状態表示等
	③移報接点	受信機などの装置に現在の状態を知らせるための外部出力 自動，手動，点検，故障（a接，b接），火災，放水 無電圧1a接点DC24V、5A

(6) 筐 体

番号	項 目	内 容
1	外形寸法	〔標準〕 1～3回線：H1000×W600×D250 (mm) 壁掛型 4～6回線：H1200×W700×D300 (mm) 壁掛型 〔特殊〕 _____回線：H____×W____×D____ (mm)
2	材質	壁掛型：1.6 t SPC (圧延鋼板) 自立型：2.3 t SPC (圧延鋼板)
3	塗装色	〔標準〕 マンセル 5Y7/1 (グレー) 半ツヤ 又は2.5Y9/1 (クリーム) 半ツヤ 〔特殊〕 御指定色： _____
4	取付方法	壁掛式 (壁掛型) , 据置式 (自立型)

(7) 一般仕様

番号	項 目	内 容
1	使用温度範囲	0～+40℃
2	使用湿度範囲	30～90%RH
3	絶縁抵抗	500Vメガーにて3MΩ以上
4	耐電圧	①AC100V系：AC1000V 1分間 ② DC24V系： AC500V 1分間

(8) 予備品

番号	項 目	内 容
1	ヒューズ	DC24V系電源 接点警報付ヒューズ2.0A 6個
2	アクリル封板	制御盤用 1枚 , 現操盤用 (区域数分)

II. 施工要領

1. 付属品

梱包箱には本体の他に予備品、取扱説明書が入っています。

はじめに、それらの物がそろっているか確認して下さい。

- | | |
|--------|-----|
| ①本 体 | 1 台 |
| ②予備品 | 1 式 |
| ③取扱説明書 | |

2. 取扱注意事項

⚠ 注 意

(1) 運 搬

- ① 重量物につき取扱いには注意下さい。
- ② 運搬中は大きな振動、衝撃を与えないで下さい。機器の故障の原因になります。
- ③ 荷おろし、梱包の際は製品に傷を付けないよう、慎重に作業を行って下さい。
機器の故障の原因になります。

(2) 保 管

- ① 高温、多湿を避けた屋内に保管して下さい。
- ② 振動、塵埃が少なく腐食の恐れのない場所に保管して下さい。

(3) 機器の設置場所と環境

制御盤は、操作・表示灯・電圧の監視をします。警備室、防災センター等の常時人のいる場所
に設置して下さい。

消火設備の機器取付については次の点に注意下さい。

- ① 現場操作盤は、防護区域を見渡せる場所に取り付けて下さい。
- ② 各機器の取付は転倒落下防止、耐震強度を考慮して強固に取り付けて下さい。
- ③ 制御盤の電源接続は、有資格者が作業して下さい。
その際、定格電圧の確認と感電防止措置をして下さい。
- ④ アース線は確実に制御盤に接続して下さい。

注 意

(4) 据 付

- ① 重量物につき据付は慎重に行ってください。
落下、転倒によるけが、機器破損の恐れがあります。
- ② 機器に衝撃を与えないで下さい。破損、故障の原因になります。
- ③ 取付は重量に耐える強固な壁、柱等にしっかりと取り付けて下さい。
落下、転倒によるけが、機器破損の原因になります。

制御盤は、次の条件を満足する環境に取り付けて下さい。

- ① 温度範囲（0～+40℃）、湿度（30%～90%RH）の所。
- ② 火災による影響、振動、塵埃、腐食の恐れのない所。
- ③ 屋内で直射日光による温度上昇の恐れのない所。
- ④ 温度、湿度の変化が少ない所。
- ⑤ 緊急時の操作がしやすい所。
(操作部が床面から800～1500mmの位置になるように取り付けて下さい。)
- ⑥ 保守点検が容易な所。

(5) 配 線

- ① 制御盤への接続は誤接続のないよう入出力端子表などで確認の上作業下さい。
- ② 移報を含め、出力は接続する負荷が定格を越えないように注意下さい。

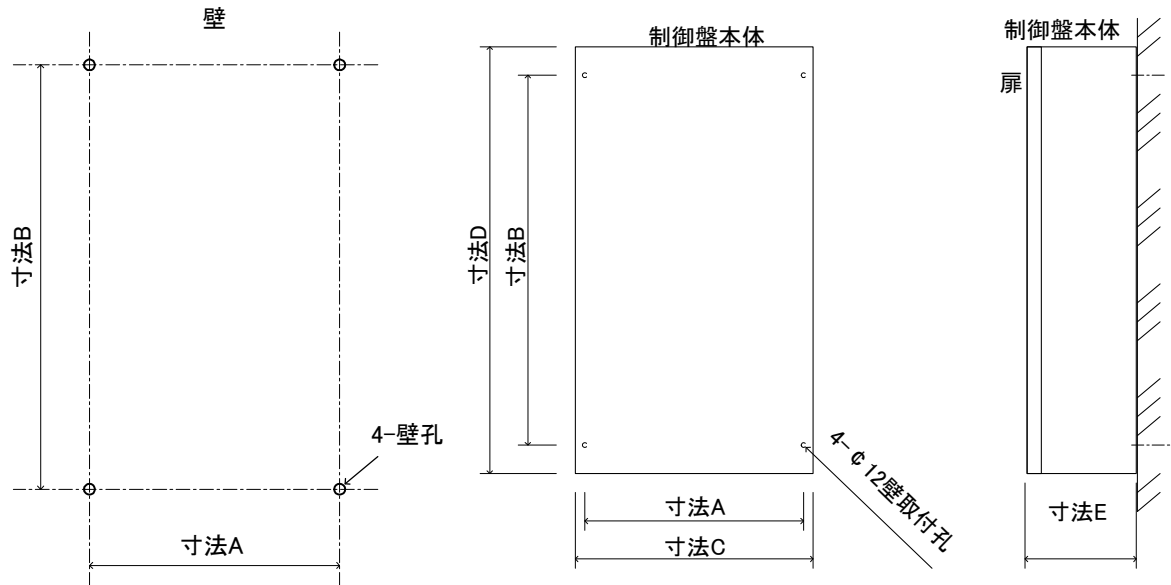
(6) その他

- ・ 内部機器に異常が認められた場合、点検資格者、機器整備の技術を擁する弊社にご用命下さい。

3. 据付工事

制御盤は、次の手順で取り付けて下さい。

- (1) 制御盤固定用の孔位置を壁にけがく。
- (2) けがいた壁の位置に孔をあける。
- (3) ボードアンカーを打ち込む。
- (4) 制御盤を取付壁面に位置あわせして置く。
- (5) 制御盤裏4箇所の固定用孔をつかい、M10ネジで壁に固定する。
- (6) 壁面にしっかり固定されているか確認する。



制御盤	寸法 A (mm)	寸法 B (mm)	寸法 C (mm)	寸法 D (mm)	寸法 E (mm)
WCP-103-01L～03L	550	940	600	1000	250
WCP-103-01WL～03WL	550	940	600	1000	300
WCP-103-04L～06L	650	1140	700	1200	300
WCP-103-04WL～06WL	650	1140	700	1200	350

制御盤が壁面に取り付けられない時は、アングルなどで架台を製作し取り付けて下さい。架台については、当社に御相談下さい。

⚠ 注意

- ・ 制御盤に孔を開ける場合は、孔あけの際の金属粉が基板に飛散しないように、制御盤内部を充分に養生してください。

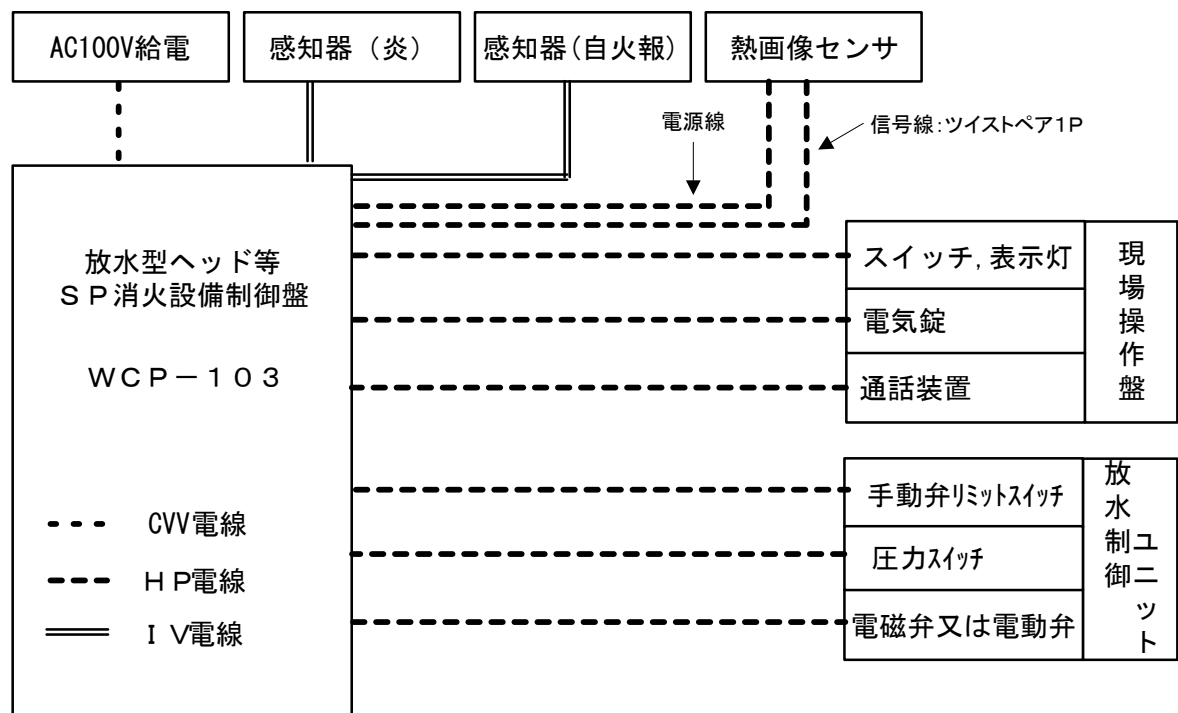
4. 配線

⚠ 注意

- ①電源線、信号線等の盤内への引き込みは指定の配線孔を使用して下さい。
- 盤に孔あけ加工をすると金属粉などにより制御回路を破損する恐れがあります。
- ②電源はAC100Vを受電して下さい。誤ると制御盤を破損する恐れがあります。
- ③電源入力AC100Vは防災設備専用の系統から受電して下さい。
- 一般機器の系統から受電しますと、電源が切られたりして正常に動作しないことがあります。
- ④アース端子は必ずD種接地工事をして下さい。感電の恐れがあります。
- ⑤受信機を接続する場合は、制御盤側のコモンと受信機側のコモンの整合性（コモン接続）を確認すること。誤った配線をする、と、全回線作動状態となる場合があります。

(1) 配線系統図

機器との配線は以下のようにHP電線、IV電線をお使い下さい。



(2) 外部端子配列表

外部入出力用の端子台の名称および記号は以下の表の通りです。

T B 0			
端子 No.	配線記号	信号名称	備 考
1	R 0	1 次側 A C 電源入力	A C 100V ± 10%(50/60Hz)を供給。
2	S 0		
3	E	F G	D 種接地。

T B 1			
端子 No.	配線記号	信号名称	備 考
4	Z C	移報コモン	
5	Z 1	自動移報	
6	Z 2	手動移報	
7	Z 3	点検移報	
8	Z 4	電源故障 (a 接) 移報	故障移報を b 接で取得したい場合は Z5 を結線。a 接で取得したい場合は Z4 を結線して下さい。(Z4 と Z10 は内部にて繋がっています。)
9	Z 5	故障 (b 接) 移報	
10	Z 1 0	機器故障 (a 接) 移報	
11	Z 1 1	N0.1 火災	区域数に応じて有り。
12	Z 1 n	N0. n 火災	
13	Z 2 1	N0.1 放水中	区域数に応じて有り。
14	Z 2 n	N0. n 放水中	
15	L S 1 C	N0.1 放水制御ユニット 入力コモン	
16	L S 1 1	1 次側開	特殊時に結線。
17	L S 1 2	2 次側開	特殊時に結線。
18	L S 1 3	2 次側閉	標準。
19	L S 1 4	試験弁閉	特殊時に結線。
20	P S 1	圧力 S W	
21	M V 1 +	電磁弁 + 側	電動弁の場合は、端子数と記号が異なります。
22	M V 1 -	電磁弁 - 側	
23	F D 1 1 L	N0.1 区域用感知器 L	熱画像センサ及び光電式分離型感知器の場合は、端子数と記号が異なります。 内部回路で C 端子がコモンになっています。
24	F D 1 1 C	C	
25	F D 1 2 L	N0.1 A N D 用感知器 L	熱画像センサ及び光電式分離型感知器の場合は、端子数と記号が異なります。 内部回路で C 端子がコモンになっています。
26	F D 1 2 C	C	
27	L S n C	N0. n 放水制御ユニット 入力コモン	区域数に応じて有り。
28	L S n 1	1 次側開	特殊時に結線。
29	L S n 2	2 次側開	特殊時に結線。
30	L S n 3	2 次側閉	標準。
31	L S n 4	試験弁閉	特殊時に結線。
32	P S n	圧力 S W	
33	M V n +	電磁弁 + 側	電動弁の場合は、端子数と記号が異なります。
34	M V n -	電磁弁 - 側	
35	F D n 1 L	N0. n 区域用感知器 L	熱画像センサ及び光電式分離型感知器の場合は、端子数と記号が異なります。 内部回路で C 端子がコモンになっています。
36	F D n 1 C	C	
37	F D n 2 L	N0. n A N D 用感知器 L	熱画像センサ及び光電式分離型感知器の場合は、端子数と記号が異なります。 内部回路で C 端子がコモンになっています。
38	F D n 2 C	C	

※なお、T B ナンバー及び端子 N o . と配線記号は、実際のものと異なる場合があります。
但し、配線記号と信号名称の対比及び区域数と現場操作盤数の記号の考え方は、表の通りです。

TB2			
端子 No.	配線記号	信号名称	備 考
1	INT1+	NO.1 現場操作盤 通話装置 電源+	現場操作盤が親機の場合は、端子数と記号が異なります。
2	INT1-	電源-	
3	INT1C	信号コモン	
4	INT11	信号1	
5	EK1+	NO.1 現場操作盤 電気錠 +	電気錠無しの場合は無し。
6	EK1-	電気錠 -	
7	GS1C	NO.1 現場操作盤 スイッチコモン	
8	DS11	ドアスイッチ	
9	GS11	緊急停止スイッチ	
10	GS12	NO.1 区域手動起動スイッチ	
11	GS13	NO.1 区域区域選択スイッチ	
12	GSn2	NO.n 区域手動起動スイッチ	
13	GSn3	NO.n 区域区域選択スイッチ	区域数に応じて有り。
14	GL0C	NO.1 現場操作盤 電源灯コモン	
15	GL10	電源灯	
16	GL1C	表示灯コモン	
17	GL11	自動灯	
18	GL12	手動灯	
19	GL13	点検灯	
20	GL14	起動灯	
21	GL15	放水中灯	
22	GL16	異常灯	
23	GL17	他区域操作中灯	現場操作盤が2台以上ある時。
24	GL18A	NO.1 区域火災(区域)灯	感知器が1系統の時は無し。
25	GL18B	NO.1 区域火災(AND)灯	
26	GL19	NO.1 区域区域選択灯	区域数に応じて有り。
27	GLn8A	NO.n 区域火災(区域)灯	
28	GLn8B	NO.n 区域火災(AND)灯	
29	GLn9	NO.n 区域区域選択灯	
30	INTm+	NO.m 現場操作盤 通話装置 電源+	現場操作盤が親機の場合は、端子数と記号が異なります。
31	INTm-	電源-	
32	INTmC	信号コモン	
33	INTm1	信号m	
34	EKm+	NO.m 現場操作盤 電気錠 +	電気錠無しの場合は無し。
35	EKm-	電気錠 -	
36	GSmC	NO.m 現場操作盤 スイッチコモン	
37	DSm1	ドアスイッチ	
38	GSm1	緊急停止スイッチ	
39	GSn2	NO.n 区域手動起動スイッチ	
40	GSn3	NO.n 区域区域選択スイッチ	
41	GL0C	NO.m 現場操作盤 電源灯コモン	
42	GLm0	電源灯	
43	GLmC	表示灯コモン	
44	GLm1	自動灯	
45	GLm2	手動灯	
46	GLm3	点検灯	
47	GLm4	起動灯	
48	GLm5	放水中灯	
49	GLm6	異常灯	
50	GLm7	他区域操作中灯	現場操作盤が2台以上ある時。
51	GLm8A	NO.n 区域火災(区域)灯	感知器が1系統の時は無し。
52	GLm8B	NO.n 区域火災(AND)灯	
53	GLm9	NO.n 区域区域選択灯	

(3) 制御盤～現場操作盤間 結線図



制御盤と現場操作盤の配線接続図

⚠ 注意

GLmC (GLコモン) 及びGS mC (GSコモン) は、+コモンです。

結線を間違えると制御回路が破損します。間違いなく結線して下さい。

⚠ 注意

制御盤の監視する防護区域、各々隣接する部分の電気工事・配管工事を行う場合は、放水制御ユニットの手動弁を操作して、誤放水を防ぐなどの対策を必要とします。この場合、消防設備士の立会いが必要となります。

5. 移報出力

制御盤や設備の状態の信号を出力します。

- ①運転モード（自動，手動，点検の3点）
- ②故障（供給電源異常，電源故障，設備の機器異常を一括）
※a接，b接出力あり。
- ③火災（区域毎）
- ④放水（区域毎）

(1) 信号仕様

無電圧a接点信号（故障のみb接も有り。）

接点仕様：DC30V，AC250V 5A（抵抗負荷）

(2) 端子表

移報信号に関する端子台の端子表示及び名称			
端子表示	名 称	出力時の条件	備 考
Z C	コモン		
Z 1	自 動	運転モードと連動して信号出力	
Z 2	手 動		
Z 3	点 検		
Z 4	故 障（a接）	故障時に接点CLOSE	
Z 5	故 障（b接）	故障時に接点OPEN	
Z 1 n	火 災	感知器作動で火災灯点灯と連動して信号出力 感知器2系統の場合は、2系統共作動で出力	区域毎に有り
Z 2 n	放 水	弁開放と圧力スイッチ作動で出力	

6. パラメータ設定器の取扱いについて（社外秘）

放水起動遅延タイマーの設定は、盤内に取付けのパラメータ設定器で工場出荷時に行っています。しかし、現場での社内試験や消防検査の都合上、設定時間を変更したい場合の設定変更についての取扱いを説明します。

・取扱い操作

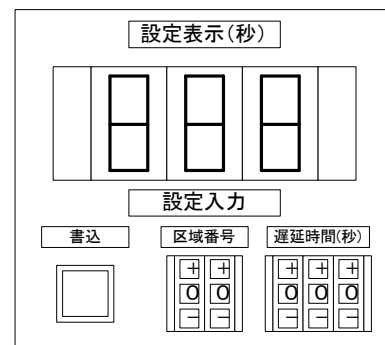
電源投入後、監視状態より操作開始 表示は “000”

準備操作

- 1) 区域番号スイッチで“00”を設定する。
- 2) パスワードを入力
遅延時間（秒）スイッチで“103”を設定する。
- 3) 書込スイッチを操作する。 ⇒ “103”表示



設定変更可能



パラメータ設定器

変更操作

- 1) 変更したい区域番号を区域番号スイッチで設定する。 ⇒ 現在の設定値を表示
- 2) 変更したい設定値を遅延時間（秒）スイッチで設定する。
- 3) 書込スイッチを操作する。 ⇒ 変更した設定値を表示

※ 書込スイッチは、1回の操作では表示が切り替わらない場合があります。
切り替わるまで、書込スイッチの操作をして下さい。

復旧操作

- 1) 区域番号スイッチで“00”を設定する。 ⇒ “103”表示
- 2) 復旧パスワードを入力
遅延時間（秒）スイッチで“000”を設定する。
- 3) 書込スイッチを操作する。 ⇒ “000”表示



復旧完了（設定変更不可）

⚠ 警告

パラメータ設定器では、放水起動遅延タイマーの他、物件毎に対応した色々な設定値を工場出荷時に設定しています。設定表にある変更必要項目以外の設定値は変更しないで下さい。制御盤及び消火設備の機能に支障が出る恐れがあります。また、放水起動遅延タイマーの変更をした場合は引渡前には、必ず工場出荷時の状態の戻してください。

パラメータ設定表

区域番号	内容	工場出荷値	区域番号	内容	工場出荷値
※4	00 パスワード (103)	103	50	固定設定値	0
※4	01 No. 1 区域放水遅延時間	※1	51	固定設定値	0
※4	02 No. 2 区域放水遅延時間	※1	52	固定設定値	0
※4	03 No. 3 区域放水遅延時間	※1	53	固定設定値	0
※4	04 No. 4 区域放水遅延時間	※1	54	固定設定値	0
※4	05 No. 5 区域放水遅延時間	※1	55	固定設定値	0
※4	06 No. 6 区域放水遅延時間	※1	56	固定設定値	0
※4	07 No. 7 区域放水遅延時間	※1	57	固定設定値	0
※4	08 No. 8 区域放水遅延時間	※1	58	固定設定値	0
※4	09 No. 9 区域放水遅延時間	※1	59	固定設定値	0
※4	10 No. 10 区域放水遅延時間	※1	60	固定設定値	0
※4	11 No. 11 区域放水遅延時間	※1	61	電源故障監視時間	2
※4	12 No. 12 区域放水遅延時間	※1	62	固定設定値	0
※4	13 No. 13 区域放水遅延時間	※1	63	電磁弁断線監視時間	2
※4	14 No. 14 区域放水遅延時間	※1	64	圧力スイッチ監視時間	1
※4	15 No. 15 区域放水遅延時間	※1	65	区域選択線断線監視時間	2
※4	16 No. 16 区域放水遅延時間	※1	66	固定設定値	0
	17 固定設定値	0	67	起動線断線監視時間	2
	18 固定設定値	0	68	固定設定値	0
	19 固定設定値	0	※4 69	放水異常監視時間	60
	20 固定設定値	0	70	区域感知器感知時間	3
	21 No. 1 区域の現操盤番号	※2	71	AND 感知器感知時間	3
	22 No. 2 区域の現操盤番号	※2	72	区域感知器断線監視時間	2
	23 No. 3 区域の現操盤番号	※2	73	AND 感知器断線監視時間	2
	24 No. 4 区域の現操盤番号	※2	74	放水ユニット異常監視時間	3
	25 No. 5 区域の現操盤番号	※2	75	区域選択切替無効時間	3
	26 No. 6 区域の現操盤番号	※2	76	固定設定値	0
	27 No. 7 区域の現操盤番号	※2	77	固定設定値	0
	28 No. 8 区域の現操盤番号	※2	78	固定設定値	0
	29 No. 9 区域の現操盤番号	※2	79	固定設定値	0
	30 No. 10 区域の現操盤番号	※2	80	固定設定値	0
	31 No. 11 区域の現操盤番号	※2	81	No. 1AND 感知器グループ	※2
	32 No. 12 区域の現操盤番号	※2	82	No. 2AND 感知器グループ	※2
	33 No. 13 区域の現操盤番号	※2	83	No. 3AND 感知器グループ	※2
	34 No. 14 区域の現操盤番号	※2	84	No. 4AND 感知器グループ	※2
	35 No. 15 区域の現操盤番号	※2	85	No. 5AND 感知器グループ	※2
	36 No. 16 区域の現操盤番号	※2	86	No. 6AND 感知器グループ	※2
	37 固定設定値	0	87	No. 7AND 感知器グループ	※2
	38 固定設定値	0	88	No. 8AND 感知器グループ	※2
	39 固定設定値	0	89	No. 9AND 感知器グループ	※2
	40 固定設定値	0	90	No. 10AND 感知器グループ	※2
	41 AND 感知器使用有無	※3	91	No. 11AND 感知器グループ	※2
	42 固定設定値	0	92	No. 12AND 感知器グループ	※2
	43 一次弁開放側 L S 有無	※3	93	No. 13AND 感知器グループ	※2
	44 二次弁開放側 L S 有無	※3	94	No. 14AND 感知器グループ	※2
	45 二次弁閉止側 L S 有無	※3	95	No. 15AND 感知器グループ	※2
	46 試験弁開放側 L S 有無	※3	96	No. 16AND 感知器グループ	※2
	47 固定設定値	0	97	固定設定値	0
	48 固定設定値	0	98	固定設定値	0
	49 固定設定値	0	99	固定設定値	0

時間設定範囲内は、0～300(秒)です。設定値が、301以上の場合300設定となります。

※1) 物件毎に設定値が変わります。変更した場合は、工場出荷時の設定値に必ず戻して下さい。

※2) 物件毎に設定値が変わります。絶対に変更しないで下さい。

※3) 使用監視有無等は、使用が1で未使用が0設定です。

※4) 現場にて変更しても影響の無い項目です。区域番号69については、現場に合った設定値に変更可能です。